――フォーマルアプローチ小特集（英文論文誌 D）論文募集――

フォーマルアプローチ小特集編集委員会

フォーマルアプローチ（形式手法・形式技法・形式理論）は，情報システムや組込みシステムの設計開発における信頼性向上の鍵となる重要な基盤です．これまで，設計対象のモデル化，要求分析と仕様記述，コード自動生成，テストと検証，保守と再利用などに関する技術と理論的知見を生み出してきました．近年の情報技術の進展に伴う対象領域の拡大に伴い，フォーマルアプローチは従来にも増して多様な分野で用いられるようになり，ますます発展しています．

本小特集は，情報システムや組込みシステムの設計・運用におけるフォーマルアプローチについて，基礎理論から応用まで，幅広い研究を対象にしています．個別の対象領域に特化したケーススタディから，分野横断的な手法や理論まで，様々な方面から，フォーマルアプローチ研究に携わる若手研究者を奨励するとともに，この分野の研究が更に発展することを目指しております．

奮って御投稿下さいますよう御案内申し上げます．

1. 対象分野

主な対象は以下のとおりですが，これに限らず，「情報システムや組込みシステム及びそれをとりまく環境を定式化した上で，そのシステムの振舞いの解析や性質の導出を厳密に行い，設計・運用に関わる種々の問題の解決を図る」ことを目指した論文を広く募集します．

―基礎理論：システムの構造や振舞いの形式記述・検証に関する基礎理論
―形式技法：ソフトウェア，ハードウェア，ネットワークなどのシステムに対する体系だった記述・検証技法
―形式ツール：モデル検査器や定理証明器など，形式手法に基づくツール
―応用：情報システムや組込システム，回路系，情報セキュリティなどへの形式手法の適用事例
―教育：教育事例

2. 論文の執筆と取扱い

―論文（一般論文），レター，及びサーベイ論文を募集します．投稿規程等は電子情報通信学会の英文誌の規程と同じです．以下の規程を御参照下さい．

“The Information for Authors”（IEICE Transactions on Information and Systems）
http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html

3. 主なスケジュール

論文投稿締切	平成 29 年 8 月 21 日（月）23：59JST
第一回判定通知予定	平成 29 年 10 月 17 日（火）
修正原稿締切	平成 29 年 12 月 17 日（日）
最終判定通知予定	平成 30 年 1 月 24 日（水）
発行予定	平成 30 年 6 月号

4. 投稿方法

本小特集では，電子投稿のみを受付けます．

論文を下記の web page から投稿して下さい．初期投稿時に，編集可能な論文本体（TeX/Word），図，著者の写真，biography も投稿する必要があります．

https://review.ieice.org/regist/regist_baseinfo_e.aspx

投稿の際には以下の項目を選択して下さい．

“Journal/Section”
->“[Special FO] Formal Approaches”

同時に WEB 上で著作権譲渡手続きができます．投稿手続きについて御不明な点がございましたら，問合先まで御連絡下さい．

5. 小特集編集委員会

委員長：土屋達弘（阪大）
幹　事：青木利晃（北陸先端大），中川博之（阪大）
委　員：石川冬樹（情報研），今井健男（東芝），來間啓伸（日立），小林孝一（北大），真野　健（NTT），山口真悟（山口大），横川智教（岡山県立大）

6. 問合せ先

本小特集のホームページ：

（和文）http://www-ise4.ist.osaka-u.ac.jp/~t-tutiya/FA/jp/
（英文）http://www-ise4.ist.osaka-u.ac.jp/~t-tutiya/FA/

土屋達弘
大阪大学大学院情報科学研究科
E-mail：t-tutiya@ist.osaka-u.ac.jp

【重要なお知らせ】

・採録が決まった論文等の著者（招待論文も含む）には，編集用データの形式（TeX/Word）に応じて掲載料が請求されます．

・著者のうち少なくとも 1 名は本会会員でなければなりません．ただし招待論文に関してはこの限りではありません．必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については，投稿を受け付けないことがありますので御注意下さい．入会案内はこちらを御覧下さい．
http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html

・オープンアクセス化：情報・システムソサイエティ英文論文誌は，2017 年 1 月よりオープンアクセス化されました．J-STAGE（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/transinf/）に掲載されている論文がすべて閲覧可能になります．